



# 北野の風

岡崎市立北野小学校 令和3年度 学校通信 No.7 【12月7日】

どこに行ったかも大切だが、最も大切なのは誰と行ったかだ

北野小学校長 丹羽 郁人

五年「山の学習」(令和三年十一月四日(木))

テーマ「挑戦し、深めよう八十九人の絆」

本校五年生が、岡崎少年自然の家に於いて「山の学習」を実施した。



天候に恵まれ、充実した活動になった。飯盒炊飯、アスレチック、落ち葉スキー、そしてキャンプファイヤー……。五年生の取り組みは素晴らしかった。しっかりと話を聞く時、「班」で協力して動く時、レクリエーションやスタンプを心の底から楽しむ時など、メリハリをもって取り組むことができた。

実行委員会を立ち上げたこと。テーマを子供たちが決めたこと。そのテーマに、ことあるごとに振り返り、そこに向かっていくか確認できたこと。何より子供たち自身の企画・運営をメインにした「山の学習」だったこと。素敵な「山の学習」であった。

そして、いちばんうれしかったのは、山の学習から帰ってきたから、担任の先生を中心に「○○さんが、こんな場面でこんな指示が出せていた」とか「○○君は、山の学習を通してこんなふうに変わった」というように、子供の成長を共に確認し、その成長を喜び合えたことである。

キャンプファイヤーの終わりには、火の神から、「挑戦の火」「絆の火」「感謝の火」が授けられた。今も子供たちの心の中であかあかと燃え盛り、永遠に消え去ることのないものになっていると信じて疑わない。

六年「修学旅行」(令和三年十一月十八日(木)・十九日(金))

テーマ「『Proud of』絆を深める旅にしよう」

六年生は修学旅行の目的地を、京都・奈良方面とした。そして、法隆寺、奈良公園・東大寺、金閣寺、二条城、大泉映画村のほかに、今年度は「ライトアップされた紅葉の中の清水寺」「北野天満宮にて学問成就の「祈禱」を日程に組み入れた。

一日目。午後五時過ぎに、清水寺へ向かう坂を上る。坂の頂上にある清水寺に着いたころは、もう辺りは暗く、足元もおぼつかない。五時三〇分、一斉に点灯。五重塔をはじめ清水寺全体が、ライトで浮かび上がる。紅葉の中の清水は、実に荘厳で美しい。

二日目。朝一番で、北野天満宮を訪れる。初めて訪れたにもかかわらず、「北野」という名称に親しみを覚え、懐かしい感じがする。神殿の奥に通され、神主さんに学問成就の「祈禱」をしていただく。神妙な顔つきの子供たち。

六年生諸君。修学旅行は、君たちの心にちゃんと刻まれただろうか。歴史の重みも、秋の紅葉という自然も、君たちの心には、ちゃんと刻まれたはずだ。

だが、六年生諸君。修学旅行は、どこに行ったかも大切だが、誰と行ったかが最も大切だ。法隆寺の五重塔を見上げた時も、奈良の大仏の大きさに圧倒された時も、きらびやかな金閣寺にうっとりした時も、バスの中も、ふとんの中も、隣には誰がいた？

そこには「友」がいたはずだ。「友」を、そして、この修学旅行でより強く結ばれた「友との絆」を、しっかりと君たちの心に刻んでおきたまえ。



五年生も六年生も、テーマの中に「絆」という文字を入れた。「友との絆」は、君たちのこれからの生活の原動力である。私には、山の学習や修学旅行において、より強固になった、君たちの「絆」がはつきりと、見える。

あこがれの高学年として、これからの学校生活・家庭生活において、どう考え、どう判断し、どう実行にうつすか。その歩みは、力強い。



# 修学旅行

ハフニングの後は

六年 山本 桜生

私は、この修学旅行で友達やクラスの人などの絆がより深まったと思います。

特に印象に残っているのが奈良公園です。思っていたよりも鹿がたくさんいて、班行動のときも鹿にせんべいをあげている人や鹿に追いかけてる人がいました。私は鹿から逃げている、班はどんぱらぱらになっ  
てしまいました。私は一緒にいた人たちと、はぐれてしまった班の友達を探しました。やっと再開できたときには、班行動の時間はあと五分になっていました。そのため、お土産を買うことができませんでした。私は少し落ち込んでしまいました。しかし、班行動が終わってクラスのみんなが集まったとき、みんなはずっと笑顔で楽しそうに落ち込んでいる暇なんてないなと思いました。それから自然と私も笑顔になりました。そして、次に行った清水寺ではたくさん人がいましたが、班は誰もはぐれずに順調にお土産を買うことができました。これは奈良公園であったことを班の一人一人が反省して、絆がより深まったからだと思います。ハフニングの後は、班のみんなと楽しく過ごすことができ、最高の思い出になりました。



これは奈良公園であったことを班の一人一人が反省して、絆がより深まったからだと思います。ハフニングの後は、班のみんなと楽しく過ごすことができ、最高の思い出になりました。

夢が目標になった修学旅行  
六年 日下部 空

歴史好きの僕にとっても楽しみな行事の一つだった。

当日、奈良の大仏や京都の金閣などを見て、どれもすごく興奮した。特にすごかったのは二条城だ。二条城の二の丸御殿の遠侍は、



金などの鮮やかな色使いで、虎の絵が描かれていた。これは、虎の絵に囲まれた大名たちが怖い思いで將軍を待つという仕掛けがあり、僕も身震いした。もう一つすごかったのは奥行きがある大広間だ。上座の畳にある松の絵は、將軍が座ると一つの絵として完成し、幕府の権力の大きさを感じた。そして、バスに乗って二条城を出発したときに目に飛び込んできたのが西門だ。西門は、江戸幕府最後の將軍である徳川慶喜が、大政奉還後に二条城を出るときに使ったと言われている。あれだけ立派なお城に対し、こじんまりとした門の姿に、僕は



わびしさを感じた。門の小ささが、当時の慶喜の思いと重なったように感じた。僕の将来の夢は歴史学者になることだ。修学旅行の経験を生かし、歴史学者への第一歩として歩んでいきたい。



# 山の学習

山の学習での思い出

五年 前村 幸美

今回の山の学習では、やったことのないことをたくさん体験しました。特に思い出に残っているのは、すい飯活動とキャンプファイヤーです。

すい飯活動の最初には炉を作りました。難しいところもあったけど、みんなが協力してやったことで上手く作れました。まきわりは他の班よりも早くやったことで、早く火を起すことができました。飯ごうでお米をたく時には、水の分量をまちがえておかゆになるかと思ったけど、混ぜたらふつうのもちもちのお米でおいしく、不思議でした。

キャンプファイヤーは、山の神様がまんなのまきに火をつけてくれたところから始まり、スタンツやゲームで盛り上がりました。三組は「イカゲーム」を真似て、もうじゅうがりを行いました。最後に見た火文字は「八十九人の絆」と書いてあって、とてもかっこよかったです。今年も新型コロナウイルスの影響で、日帰りだったけど、とても思い出に残る山の学習でした。

山の学習では、一人ではできなかったことを協力して成功させることができました。



できました。これからあるなわとび大会などみんなで協力することを大切にしていきたいです。

協力のカレー

五年 外村 那智

僕は山の学習で、カレーを作って食べる飯活動をとっても楽しみにしていました。山の学習へ行く前に先生から、「少しの失敗があっても、みんなで協力してその失敗をカバーしあえるといいね。」という話を聞きました。

山の学習当日、いよいよ炊飯活動の時間がきました。僕は食事係で、飯盒で米を炊くという役割がありました。準備している最中に、米がこぼれてしまうというハプニングがありました。そのとき、先生が言っていた「みんなで失敗をカバーする」という言葉を思い出して、食べられそうな部分をすくって飯盒に入れました。出来上がったカレーをみんなが笑顔で食べている姿を見て、頑張ったかいがあったと感じました。みんなで協力してカレーを作れたことがとても楽しかったです。

